

2009/10/21 (阪大) 2009/11/18 (NII)

## 学術情報リテラシー教育の理論と動向

野末 俊比古

### はじめに

- ・研修の目的・構成
- ・講義の目的・構成

### 学術情報リテラシー教育をどうとらえるか

〈参考〉これは情報リテラシー？

- ・ Excel でデータを入力、グラフを作成
- ・ HTML でホームページを作成
- ・ Yahoo! で AND 検索や OR 検索
- ・ NDC で図書を探す
- ・ 著作権法第 32 条を守る
- ・ 出会い系サイトを使わない

情報リテラシーの今日的理解

- ・ 情報を主体的に使いこなす能力
- ・ 問題解決能力の中核
- ・ 「図書館リテラシー」も (重要な) 要素
- ・ 一種のスローガンとして機能
- ・ スキル (技能) の側面が強調

- ・ 中身は分野・文脈に依存
- ・ 大学・学部・学科などによって違い

最近の実践動向 (例)

- ・ 初年次教育 (導入教育)
- ・ 出張講座 (出前講座)
- ・ PBL/チュートリアル
- ・ 教材・ツール開発 (テキスト、パスファインダなど)

最近の政策動向 (例)

- ・ IT 基本法 (2001)
- ・ 学術審議会建議 (1996)
- ・ 科学技術・学術審議会報告 (2006)
- ・ 中央教育審議会答申 (2008)

〈参考〉空欄に入る言葉は？ (「学術情報基盤の今後の在り方について (報告)」)

- ・ 2. 大学図書館を取り巻く課題
- ・ 2.5 図書館サービスの問題点
- ・ (イ) [ ] の位置付けが不明確
- ・ 多くの大学で行われている [ ] は、教養教育及び各専門分野における教育との [ ] が不十分であり、効果が [ ] である。

図書館の利用者教育をめぐる変化

- ・ 「図書館」「資料」→「情報」
- ・ 「探索・収集」+「整理・分析」「表現・発信」
- ・ 「図書館 (員)」+「図書館以外 (授業・教員など)」

「利用者教育」から「指導サービス」へ

- ・図書館の「内部」から「外部」の文脈へ（体系的な情報リテラシー教育）
- ・「逐次的」「個別的」「単発的」→「体系的」「計画的」「組織的」
- ・これまでの活動の再構築・体系化（指導サービス）

### 学術情報リテラシー教育（指導サービス）をどう進めるか

〈参考〉 マネジメントサイクルと指導サービス

- ・ Plan（計画）→Do（実施）→Check（評価）→Action（改善）→Plan→Do→…
- ・ 教育学（教職・教育実践）の基礎
- ・ インストラクショナルデザイン

#### ①指導サービスの目的・意義（Why）

- ・ 必要性・有効性を再確認：「自立した情報利用者」
- ・ 図書館の使命：「図書館ならではの」「図書館だからこそ」

#### ②指導サービスの目標・内容（What）

- ・ 利用者からみた記述（～ができる）
- ・ ステップごとの知識・技能＋メタ認知＋……
- ・ 「印象づけ」なども含めて
- ・ JLA/ACRL のガイドラインなども「よりどころ」や「たたき台」として

#### ③指導サービスの方法・手法（How）

- ・ 直接（対面）／間接（遠隔）
- ・ 同期的／非同期

- ・ 集団／個人（個別）
- ・ ツール（メディア）の活用

④指導サービスの手順など（Who, When, Where）

- ・ 指導目標・内容の順序・段階（らせん型の指導）： 入学（前）から卒業（後）まで
- ・ 「大（長期・全体）」から「小（短期・部分）」へ： 体系表（カリキュラム・プログラム）→ 指導案（シナリオ・進行表）→ 教材・教具など
- ・ 授業のとの関わりはさまざま： 関連なし（図書館独自）、学科関連指導、学科統合指導、独立学科目

⑤指導サービスの対象（(To) Whom）

- ・ 利用者（層・像）の把握・分析（セグメント化）： ニーズ、スタイル、...
- ・ 「ネタ」はシラバス以外にも……
- ・ 「平成生まれ」の情報利用は？
- ・ プロファイルの作成など： 平均像・典型像＋個々人（カルテ？）
- ・ 学生以外にも重要な対象

〈参考〉「ニーズ」とは？

- ・ 「needs」と「demands」
- ・ 「顕在的（化）」と「潜在的（化）」

〈参考〉（学術）情報利用環境・行動の変化

- ・ インターネットなどの普及： GeNii（CiNii）、...
- ・ 情報探索・利用行動は多彩： ブラウジング、チェイニング、モニタリング、...
- ・ 図書館は「one of them」だが……

(参考) 情報探索・利用の心理・思考

- ・心理 (感情・情意) : 「不安」の軽減、「楽しさ・お得感」の演出、...
- ・思考 (認知) : 「見る」「聞く」を意識化、...

おわりに

- ・さまざまな課題 : 「共有」の重要性
- ・大学コミュニティにおける位置づけ (ライブラリアイデンティティ)
- ・図書館員の役割 (専門性)

付. 高校までの「情報教育」の現状 (教科「情報」を中心に)

学校教育における情報教育

- ・情報活用能力の育成 : 「生きる力 (課題解決能力)」として
- ・情報活用能力の要素 (焦点) : 情報活用の実践力、情報の科学的な理解、  
情報社会に参画する態度

「情報教育」の体系化のイメージ (文部省『高等学校学習指導要領 情報編 解説』2000)

	情報活用の実践力	情報の科学的な理解	情報社会に参画する態度	
小学校	総合的な学習の時間での活用	各教科・科目での活用		
中学校			技術・家庭	社会
高校			数学等	公民
		情報		

### 高校普通教科「情報」の概要

- ・ 目標： 情報化の進展に主体的に対応できる能力・態度の育成
- ・ 構成： 「情報 A」「情報 B」「情報 C」 から 1 科目以上が必修
- ・ 特徴： 「問題解決」が基礎、文理融合型、実習（技能）重視、...

### 中学校「技術・家庭」の「情報とコンピュータ」分野

- ・ 情報手段が果たす役割
- ・ コンピュータの構成・機能・操作
- ・ コンピュータの利用
- ・ ネットワーク
- ・ (マルチメディアの活用)
- ・ (プログラムと設計・制御)

### 別添資料

拙稿「情報リテラシー教育と大学図書館：『利用教育』から『指導サービス』へ（特集 大学図書館と利用教育）」『図書館雑誌』 vol.102, no.11, 2008.11, p.762-765

拙稿「情報リテラシー教育における図書館員の役割：NII 研修プログラムの背景にあるもの」『短期大学図書館研究』 no.28, 2009.3, p.23-32

ACRL「高等教育のための情報リテラシー能力基準」（野末俊比古訳）ACRL, 2001（抄）

### 参考文献（別添資料に掲載されているものは除いて選択的に挙げた）

瀬戸口誠「情報リテラシー教育とは何か：そのアプローチと実践について（特集 情報リテラシー）」『情報の科学と技術』 vol.59, no.7, 2009.7, p.316-321

長澤多代「アラム・カレッジの図書館が実施する学習・教育支援に関するケース・スタディ」『Library and Information Science』 No.57, 2007, p.33-50.

三輪眞木子『情報検索のスキル：未知の問題をどう解くか』（中公新書）中央公論新社，2003.

三浦逸雄ほか『大学改革と大学図書館の学習・教育支援機能：アンケート調査結果』東京大学大学院

教育学研究科図書館情報学研究室, 2002. [<http://www.cl.aoyama.ac.jp/~tnozue/ugl/>]

拙稿「『情報リテラシー教育』とは何かを考えるにあたって (この本! おすすめします)」『情報管理』vol.52, no.3, 2009.6, p.168-171.

拙稿「情報リテラシー: デジタルデバイスとのかかわりを改めて考える」三浦逸雄監修『図書館情報学の地平: 50 のキーワード』日本図書館協会, 2005, p.281-286.

拙稿「特論 1 情報社会と学校: 情報活用能力の育成を中心に」鈴木真理, 佐々木英和編『社会教育と学校』(シリーズ生涯学習社会における社会教育 第 2 巻) 学文社, 2003, p.197-209.

## 講師紹介

のずえ・としひこ……青山学院大学教育人間科学部准教授。学術情報センター助手, 文部省社会教育官, 青山学院大学文学部専任講師・助(准)教授, 国立情報学研究所客員助(准)教授などを経て, 現職。社会活動として, 日本図書館協会図書館利用教育委員会委員長, 新宿区新中央図書館等基本計画策定委員会副会長, 日本図書館情報学会研究委員, 国立教育政策研究所社会教育実践研究センター「インターネットを活用した遠隔社会教育研修の在り方に関する調査研究委員会」委員, 東京都立図書館協議会委員, 国立国会図書館図書館情報学情報誌編集企画員など。著作に、『情報探索と情報利用』(勁草書房、共著、2001)、『学校図書館メディアの構成』(樹村房、共著、2002)、『情報メディアの活用』(樹村房、共著、2002)、『社会教育と学校』(学文社、共著、2003)、『変わりゆく大学図書館』(勁草書房、共著、2005)、『図書館情報学の地平』(日本図書館協会、共同編集・執筆、2005)、『専門資料論 (JLA 図書館情報学テキストシリーズⅡ)』(日本図書館協会、共編著、2008)、『情報 A (高校検定教科書)』(教育出版、共著、2007) など。専門分野は図書館情報学・教育学, 関心領域は情報リテラシー教育。静岡県生まれ。

